

北九州市学校給食審議会議事概要

- 1 会議名 平成30年度 第2回北九州市学校給食審議会
- 2 議 題 給食費の現状について
- 3 開催日時 平成31年3月27日(水) 15:00~16:00
- 4 開催場所 小倉北区役所庁舎東棟6階 教育委員会会議室

5 出席者氏名

[委員] (14名: 順不同、敬称略)

村上さとこ、天本祐輔、伊藤宏之、白水京子、貴志倫子、安倍ちか、小森潤一郎
清水良江、脇文子、遠藤誠一、佐藤文俊、倉本京子、本庄裕子、淵上瑞恵

[事務局] (6名)

学校支援部長、学校保健課長、ほか関係職員

6 議事要旨

◆「給食費の現状」について事務局より説明。

- ◇委 員 ・保護者から徴収している学校給食費は、給食実施に係る費用のどれくらいを補っているのか。
- ◆事 務 局 ・学校給食法第11条により、食材にかかる費用については、保護者の方々に負担していただき、その他光熱水費や人件費は教育委員会で負担している。平成29年度の決算ベースで食材に係る費用が約3.4億円、給食実施に係る費用が約3.8億円となっている。トータル7.2億円のうち、3.4億円が保護者負担という状況になっている。
- ◇委 員 ・給食費は足りているのか。
- ◆事 務 局 ・(公財)北九州市学校給食協会において、この金額の中に収まるように、毎年度、計画を立てて、食材を一括で購入している状況である。
・献立を変えるなどの工夫をして、この金額の中でやりくりしないといけないという前提がある。今後さらに主食の費用が上がると、厳しい状況になるのではないかと認識している。
- ◇委 員 ・子供たちの健やかな成長のためには、適切な給食費の設定が大切であると考えている。平成30年8月に学校給食摂取基準が改定され、「エネルギー(kcal)」は小学校、中学校共に10キロカロリー増えており、その分、副

食への影響が懸念される。

限られた食材で給食を提供することになると、安価な食材に偏ってしまい、子どもたちの成長に望ましくないのではないかと懸念される。

それから、食育の面から、学校給食は子どもたちがいろいろな食品と出会う場であると考えられる。子どもたちは給食で提供される食材から、旬のこと、産地のことなどを学ぶことができる。食材が偏ってしまうと、そのような面からも子どもたちへの影響が出てくると考える。

◇委員 ・ 小学校6年生の最後の1週間は子どもたちの好きな給食がよく出ていて、みんなとても楽しみにしている。そこで、サイコロステーキが無くなったり、3色ごはんが2色ごはんになったりして、子どもたちとしても寂しい感じがする。

◇委員 ・ 給食の食材が変わってきたと感じる。平成30年度第1回目の給食審議会の資料を見ても、この数年で食材が値上がりし、困窮している状況が分かる。
・ 給食は子供たちが本当に楽しみにしている。ただ学校で食事をするというだけではなく、学校教育において、大変意義深いものであると思う。食育の面もあり、感謝の気持ちも育つ。給食のことを大事に考えるならば、厳しい現状ではないだろうか。

◇委員 ・ 給食献立アンケート結果の中で提供できていない献立が多くあるということなどの、保護者が現状を理解する情報は公開してもいいのではないかと懸念される。

◆事務局 ・ 保護者の方々に、今回の資料のような献立の変化などは、知らせていくようにしたい。

◇委員 ・ 議会の中でも、給食の内容が大変乏しくなっているということが議題に挙がっている。多様化パンや牛肉、デザート回数がかなり減っているということに対して、驚いている。他都市の状況を調べてみたところ、値上げしている都市も多く、その中でも、給食の内容が充実するならば、値上げはやむを得ないといった意見が多かった。

・ 給食費を上げるならば、給食の内容がどれだけ充実するのかということと、バリエーションがどれだけ増えるのかということをお示しいただきたい。

◆事務局 ・ 現在、小学校の給食費が月額3,900円で、仮に政令指定都市の小学校平均である月額4,410円、現在の給食費から月額500円程度上げると想定すると、平成26年度当時の給食と同等の給食が提供できるのではないかと平成31年3月議会で教育長より答弁をさせていただいた。今後どのように対応するかを、この学校給食審議会の場でご議論いただきたいと考えている。

◇委員 ・ 子どもたちのためにも給食費の値上げは致し方ないのではないかと懸念される。あとは、どれぐらいの金額が適正かということだと思う。政令指定都市の平均近くまでは上げたほうがよろしいのではないかと考えるが、いかがか。

◆事務局 ・ 手続きとしては、まず、教育委員会会議で、給食費の値上げについて学校

給食審議会に諮問することとして、その後、学校給食審議会の中で、上げるとすれば、いくら上げるかという議論に至ることになる。今後、教育委員会内で、どのように対応するか内容を詰めて検討していきたい。

- ◇委員 ・ 子供たちが給食を食べるときを見ると本当に笑顔である。先ほど、月額500円上げるという想定の話が出たが、その500円が子供たちの笑顔の価値に値するかどうかを議論していただきたい。子どもたちは給食を楽しみにしている。いくら値上げするのか、いつ値上げするのか、早急な対応を求めたい。
- ◇委員 ・ 議会の中でも、所得が低いご家庭の方が値上げにより、ダメージが出るのではないかとということで、そのような方は就学援助で補えるという話も出たが、就学援助にかからないボーダーラインの方たちが非常にきつい状態になると思う。また、多子世帯についても検討の中に入れていただきたい。
- ◇委員 ・ そこは問題であると考えている。例えば、クラウドファンディングとかふるさと納税とかを利用して、市民が学校給食に寄付できるようなシステムはできないのか。
- ◇委員 ・ 平成31年3月議会で、教育委員会に基金が創設されたと思うが、その基金を給食費に充てることは考えていないのか。
- ◆事務局 ・ 学校応援基金というものを教育委員会で創設した。特色のある学校などへこの基金を使うように制度設計をしているところだが、学校給食の食材に充てるとなると、大きな金額が継続的に必要となるので、そういったものも含めて検討していかなければならないと考える。
- ◇委員 ・ 保護者の負担を減らすことは大切であると考えているが、学校で、子どもたちの様子を見てみると、経済的に苦しいと言われるご家庭でも、子どもは携帯電話を持っている。未来を担う子どもたちの身体を育てる数百円と携帯電話料金に充てている数千円、それらをうまく分配できるものであれば、そのような周知もできるのではないかと考える。
- ◇委員 ・ 学校給食を充実する方向で給食費を値上げすることに異論はない。資料の中で、政令指定都市別の給食費の資料をみたときに、給食費の単価が高いほうが、これだけ充実した給食になっているというような資料もあると説得力が増すと思う。これから議論をしていく中で、資料の出し方などもご検討いただきたい。
- ◆事務局 ・ 浜松市や新潟市は本市と比べ、1,000円近く給食費の月額が高い。このことについて両市へ問い合わせたところ、浜松市や新潟市は平成の大合併の時期に周囲の町村を一括で合併し、地域が大きくなっている。そのため、町村の豊かな給食が市の基準に入ってきており、北九州市よりも1品多く、さらにデザートが付いているような献立になっている。

・今回、いただいたご意見については、次回以降の給食審議会で状況を説明させていただきます。